安藤勝己元騎手特別インタビュー

笠松の馬でJRAのGI勝つのが夢だった

―安藤勝己さんにとって笠松は"過ごしたわけだから大切な地。笠松競馬場でも子供だったから、馬に怒ねで。そこには自分28日、1着賞金1000万円を懸けたオッズパークグランプリが行われます。安藤さんにとって、笠松はどんな思い出がありますか？

―安藤勝己元騎手。おれにとってはふるさとみたいなところあやね。昔は競馬場の雰囲気も全然違ったあ。最初に来た時は向正面のラチの外には草が生い茂っていたし、ラチも木だった。砂の色も、質もちょっと見ない間にずいぶん変わったねぇ。でも、笠松での引退式でやっぱり、懐かしいなあって思ったよ。

―思い出すことは多そうですね？

そうだね。中学一年の時に馬に乗りだしてから約40年。その間のほとんどを笠松で過ごしたわけだから、でも、そのころは自分も子供だったから、馬に怒ったなあ。あれは本当に反省している。今でも後悔しているよ。

―笠松は初勝利の記念は？

覚えているよ。ジュニアチャイナって馬で、2戦目を勝ったものその馬。素質はあったし、今も感謝している馬だね。

―思い出の馬は？

賞、平安Sを勝った、笠松フェートノーザン（帝王砂の色も、質もちょっと見を代表する名馬）やね。交ない間にずいぶん変わった流レースで付き一きりでいたねぇ。でも、笠松での引退式でやっぱり、懐かしいなあって思ったよ。

―思い出すことは多そうですね？

そうだね。中学一年の時に馬に乗りだしてから約40年。その間のほとんどを笠松で過ごしたわけだからね。でも、そのころは自分も子供だったから、馬に怒ったなあ。あれは本当に反省している。今でも後悔しているよ。

―初勝利の記念は？

覚えているよ。ジュニアチャイナって馬で、2戦目を勝ったものその馬。素質はあったし、今も感謝している馬だね。

―思い出の馬は？

賞、平安Sを勝った、笠松フェートノーザン（帝王砂の色も、質もちょっと見を代表する名馬）やね。交ない間にずいぶん変わった流レースで付き一きりでいたねぇ。でも、笠松での引退式でやっぱり、懐かしいなあって思ったよ。

―思い出すことは多そうですね？

そうだね。中学一年の時に馬に乗りだしてから約40年。その間のほとんどを笠

思い出深いオグリ引退式

3万人が詰めかけたオグリキャップの引退式＝1991年1月15日、笠松競馬場で

笠松競馬場について語る安藤勝己元騎手

る時間が多かった馬だから。強かったし、いまあの馬がいれば、JRAでも通用しただろうね。

―引退後は笠松でセレモニーも開いた。

うれしいよね。やっぱり、笠松だと身近な人が多くて、いろいろ思い出すね。でも、一番記憶に残るのはオグリキャップの引退式かなあ。すごい人だったもんね。今は笠松も経営的に苦しいけど、何とかこの状況が止まってくれないかと思っているよ。

―そんな安藤さんが、JRAを意識し始めたのは？

やっぱり、ライデンリーダーがJRAに挑戦して勝ってから。それにレジェンドハンター、リーダーの桜花賞もそうだったけど、ハンターの朝日杯はおれが中山で多く騎乗していれば、用しただろうね。

―引退後は笠松でセレモニーも開いた。

うれしいよね。やっぱり、笠松だと身近な人が多くて、いろいろ思い出すね。でも、一番記憶に残るのはオグリキャップの引退式かなあ。すごい人だったもんね。今は笠松も経営的に苦しいけど、何とかこの状況が止まってくれないかと思っているよ。

―そんな安藤さんが、JRAを意識し始めたのは？

やっぱり、ライデンリーダーがJRAに挑戦して勝ってから。それにレジェンドハンター、リーダーの桜花賞もそうだったけど、ハンターの朝日杯はおれが中山で多く騎乗していれば、

先行激化なら差し馬にもチャンス

専門紙「競馬エース」竹中嘉康記者

「名馬、名手の里」が笠松競馬のキャッチフレーズ。先日引退した安藤勝己騎手を筆頭に数々の名手が徽闘を繰り広げてきた。そして古くは、怪物・オグリキャップ、イナリワン、ミツアキタービン、レジェンドハンターと全国区レベル入厩頭数も決して多くないが、脈々と続いている。

ユウアデナス、ダイクチカラからはじまり、怪物・オグリキャップ、イナリワン、ミツアキタービン、レジェンドハンターと全国区レベル入厩頭数も決して多くないが、脈々と続いている。

背後に木曽川を控え、コース内に田畑が広がり、向こう周1000mの小さく配せ、厩舎から馬場までに堤防を毎日昇り下りするなど特殊調教と同様の効果が得られる。

また、馬場入りのするのに出し難い公道を通る事、コーナー脇には名鉄電車が走っており、常にそれらに気を配らされる事は、精神面で強くなっていく、外的要因としてそれらが考えられる。

ただ、強い馬が今でも登場する理由は、中央との交流が盛んなお陰で年前から、他地区やお古屋など強い相手を求めて積極的に遠征するなど、少しでも馬を強くしようとしてきた、笠松競馬の伝統だ。前述の通り向正面に2ヶ所の急カーブがあり、外枠の馬ほど内ラチ沿いを走ります。「左右二つのコーナーで外枠の馬が不利」と言われるが、実際は内枠でも外枠でも有利なのは明らかだ。

ムダな加速をせずに内ラチ沿いを走れる内枠を狙うのが定石。ただ、内枠でも外枠でも差し馬は差し馬。何より斤量56kgが魅力で、ライバルのラブミーチャンは牝馬の